

第3章 アクションをみんなで起こし、 問題を同時解決するために



1 行動の10年-推進の人づくり・仕組みづくり

▷ Point.....◁

- SDGs 達成年の2030年までの「行動の10年」を切る中、①あらゆる場所のすべての人が参加すること、②即効性のある大胆な行動を起こすこと、③新たな発想と解決策を推進させることの実現が国際的に求められています
- そのために、対馬市では行動を起こせる人づくり(学校教育、社会教育でのSDGs教育支援、対馬グローバル大学による多世代・多地域・多分野共学)、気軽に集まり対話する仕組みづくり、アクションを応援する仕組みづくりに取り組みます

(1)SDGs 推進を担う人づくり①-学校でのSDGs教育支援

SDGsを全島的な取り組みにしていくためには、一人一人、家庭、グループ、地域、企業、行政すべての主体、環境・社会・経済をつなぐ「学校」は極めて大きい存在です。新・学習指導要領の前文では「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられ、各教科の教科書でSDGsが取り扱われるようになりました。SDGsの推進拠点としての学校の存在は持続可能な社会づくりにおいてますます大きくなっています。そうした教育環境の変化を支えるためにも、総合的な学習や探究学習等の支援を通じて学校との連携を強め、SDGsの全体波及と行動の加速を図ります。

学校教育支援では、2030年、2050年を担う子どもたちの考えや意見に向き合う貴重な機会となります。子どもたちが自分たちの未来をどう創っていきたいか、今後のアクションプラン見直し等において、そうした声・意見を採り入れながら今後のアクションプラン見直しを図ります。

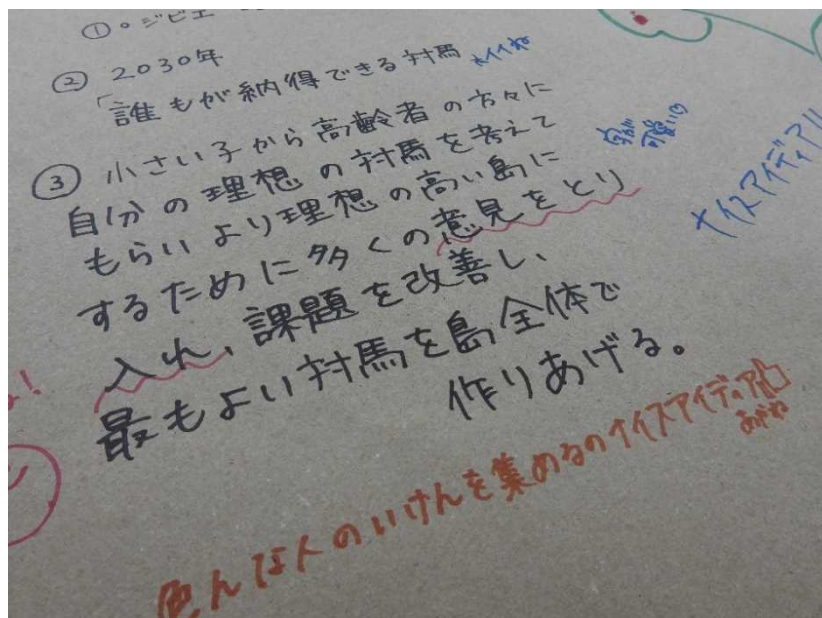


写真16 子どもたちの考え方の例(対馬高等学校「ESD 対馬学」。2030年の対馬のあるべき姿と今取り組むべきことについての生徒記述)



写真 17 SDGs に関する学校教育支援の例(仁田中学校「海ごみの利活用を考えよう」)。海岸清掃体験後、クリーンセンターでリサイクル施設を見学し、海ごみの再生利用に取り組む伊藤忠商事の担当者にオンラインでインタビュー。学習成果のまとめとして、新たな利活用案を伊藤忠商事に提案するプロモーションビデオを製作

(2)SDGs 推進を担う人づくり②ー対馬グローバル大学の運営

SDGs の推進には、地球規模の視野で課題解決を考え、地域の持続的な発展のために行動する力が不可欠です。そこで対馬市では、SDGs ゴール 4「質の高い教育をみんなに」を強く意識し、「域学連携」でゆかりのある専門家や島内外の実践家を講師に迎え、2020 年 9 月にオンライン講座「対馬グローバル大学」を開講しました。

対馬グローバル大学は、①web 講義、②オンラインゼミ、③仮想研究

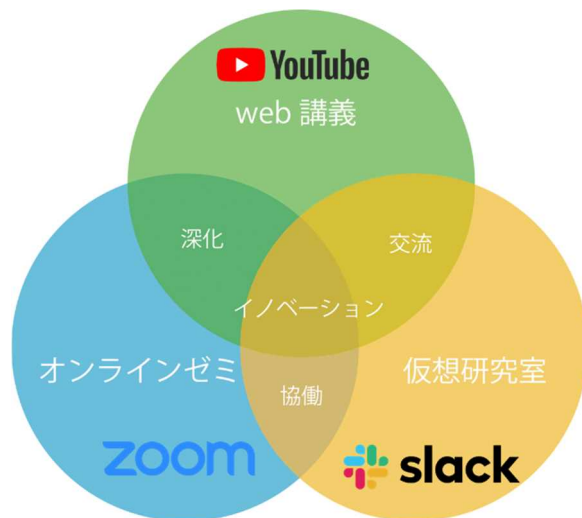


図 40 対馬グローバル大学の学びの体系

室の3つを柱に、環境・社会・経済をバランスよく学べるのが特徴で、インターネット、スマートフォン、タブレット、パソコンがあれば、いつでも、誰でも、どこからでも受講できます。そのため、居住地関係なく、多地域・多世代・多分野の人が集い共に学び合うことができます。2020年度、2021年度と受講生は100名を超え、対馬の現状やSDGs等への理解を深め、解決策を考える機会となっています。特にゼミでは、市民が主体的に政策を考えていくプロセスに、専門家が加わることで市民の主体性・実行性を高めています。そうしたゼミ内での学び合いや交流は、SDGs推進において重要なパートナーシップの形成にもつながっています。島外からの受講ニーズも高く、オンライン、対面両方の「二重の深い学び」を通じて、新たな“関係人口”が生まれています。

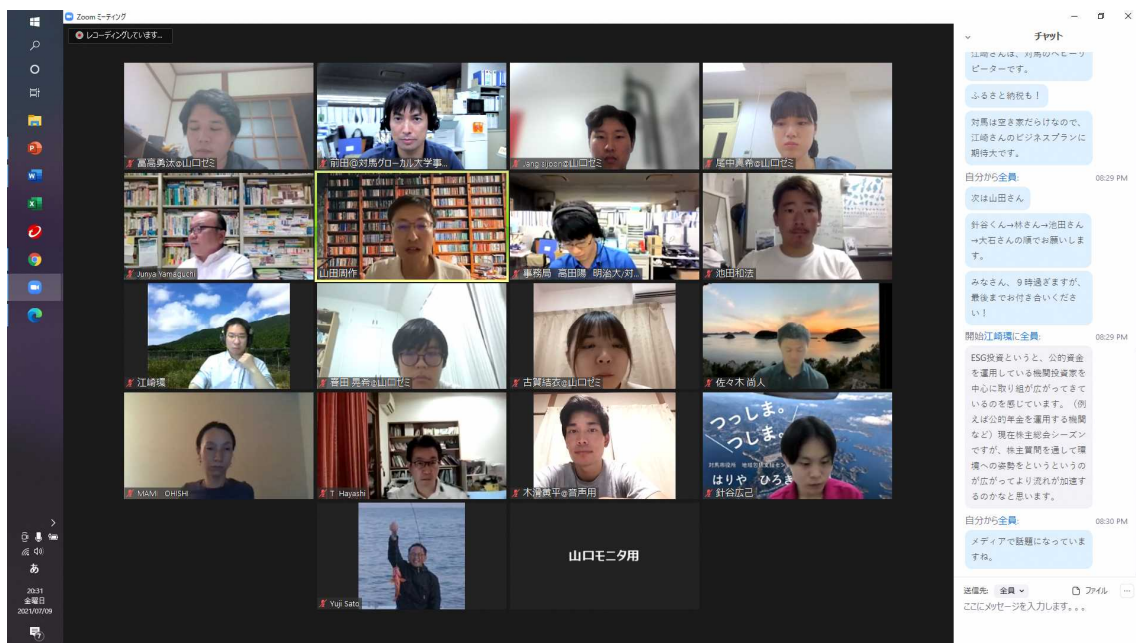


写真 18 オンラインゼミの様子

(例：長崎大学経済学部・山口純哉准教授の指導による「ビジネスゼミ」)

そうした効果が認められることから、今後も対馬グローバル大学を継続運営します。また、市民修了生を対馬市 SDGs 総合研究所の市民研究員として委嘱し、なおかつ、公募により SDGs 研究を奨励補助することで、受講生の継続的・発展的な研究・実践活動を促します。

対馬グローバル大学の延長線上に「SDGs の島・対馬」を確立し、子供から大人まで企業研修も含めた学びの場にしていくことで関係人口を増やし、多様なパートナーシップを構築していきます。

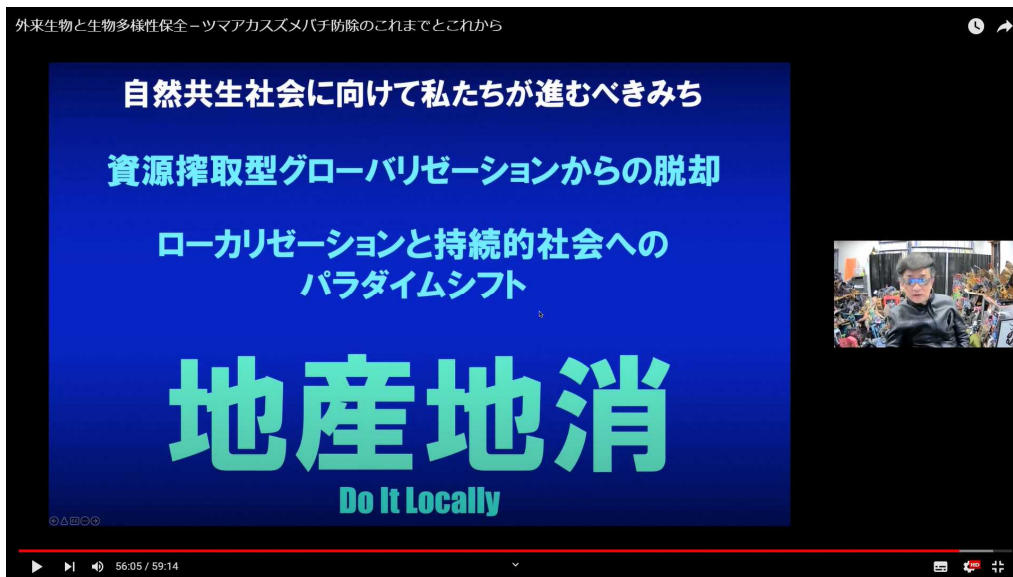


写真 19 web 講義の様子(例:国立環境研究所・五箇公一氏「外来生物と生物多様性」)

(3) 気軽に集まり、対話する仕組みづくり

SDGs アクションプランの作成にあたり、SDGs 市民ワークショップを開催しました。参加者の中には自主的に集まって勉強会を継続し、具体的なプランを独自に考えた方もいます。このように、SDGs に関心を持つ方々が気軽に集い、対話を楽しみながら学び合い、みんなで行動に移せるよう、対馬市では「SDGカフェ」(仮称)を設けます。

カフェでの対話や対馬グローバル大学の学びで生まれたアイデアや提案を実行に移すためには、その提案に賛同し、一緒に取り組むパートナーを探していく必要があります。そこで、個人、地域団体、島内外の企業、関係行政機関、大学研究機関等との交流とマッチングを促すために「SDGs 推進プラットフォーム」(仮称)を形成します。プラットフォームでは市民の主体性と地域の自立性を尊重し、チャレンジを応援するために専門家の積極的なサポートが得られるような体制を整えます。また、対馬の未来のためにみんなが集まることで共有される知見や技術を蓄積していき、革新(オープンイノベーション)をもたらす場としてプラットフォームの魅力(求心力)を高めます。

(4) アクションを応援する仕組みづくり

対馬で SDGs に既に取り組んでいる、あるいはこれから取り組もうとしている人・団体・学校・企業・関係行政機関等を把握し、パートナーシップを形成した上で、各主体のアクションの奨励と後押しを行うため「対馬 SDGs パートナー登録制度」(仮称)を設けます。

また、同制度、SDGs カフェでの対話やプラットフォームで生まれた新たなアイデアを行動に移すための仕組みづくりに取り組みます。特に、メンタル面含め、準備やスタート、継続発展を支え、アクションを加速させる人・団体の確保とプログラムづくりを進めます。このような「アクションを応援する仕組みづくり」は、全国各地の SDGs 未来都市において既に先進的に取り組まれていることから、SDGs 未来都市間のネットワークを活用し、交流・意見交換をしながら、対馬の地域特性・課題に合わせた制度設計に努めます。